

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団 清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(1号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	平成25年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku_in/22/index_cbn?action=kouhyou_detail_2010_022_kanji=true&UevosvoCd=2276400071-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 モア設備設計事務所		
所在地	静岡市葵区昭府1丁目8番35号ツキチ商事ビル4F		
訪問調査日	平成25年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鶯のさえずりに耳を傾け、梅や桜の花を愛でお花見を楽しみ、新緑の息吹を感じての散歩、イチヨウや紅葉の色の変化を楽しめる自然豊かな環境です。
散歩の途中では、山の神様に「今日も元気で過ごせますように」とお願いし、一日が始まります。
3ユニット合同でのレクリエーションや、ボランティアの方の支援で畑に作物を作り、成長と収穫と一緒に手伝い、入居者様同士の交流も深めています。
夏祭りは地域の子供会や老人会の方を招待して、総勢150名近くの参加があり、毎年楽しみの一つになりつつあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2001年開設の地域では老舗のグループホーム。日当たりの良い丘の斜面、広い敷地の中に各ユニットが独立した平屋の建物になっている。
隣接して同法人経営の老人保健施設があり、医療面・運営面で協力関係にある。施設の夏祭りには数年前より地域の子供会、老人会が参加、100人を超す人が訪れる。運営推進会議にも地域の老人会の方が参加し地域との関係も深まっている。
リビングルームはとても明るい。老若のバランスがとれた職員の年齢構成。笑顔の丁寧な対応で落ち着いた明るい雰囲気。食材は3ユニット共通のものが業者から提供されるが、時には入居者の好みなどに合わせ、各ユニットごとにメニューを変更し調理している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で思いやりの介護」という理念を事務所内の目に付くところに掲示し、職員が常に意識できるようにしています。	理念は掲示だけでなく、実際にも笑顔で入居者に接することが実践できていたので、意識されているが、口からスラスラ出てくるほどにはなっていない。	声に出して理念を確認する機会を設けるなど、より浸透する方策が講じられることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の祭りや行事、清掃やゴミ拾いに参加しています。畑を耕してくれるボランティアの方がいて畑を通して交流したり、近隣の方と会えば話をしたり、あいさつを交わしたりもします。施設の夏祭りには子供会や老人会の方を招待し交流をしています。	敷地内の畑の世話を地域の方がしてくれたり、同一法人経営のケアセンターとの夏祭りに地域の子どもや老人が多数参加している他、中学生のボランティア体験や地区のそば祭りに入居者も参加するなど、付き合いは深まりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の勉強会を開催しました。認知症の方の心理状態や体の状態を理解して頂く為、地域の方も参加して頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回推進会議を開催し、地域包括、民生委員、地域の方、入居者のご家族様などが参加し、報告や意見を聞いたり、話し合いをして、状況の共有を図っています。	2ヶ月に1度開催され、地域の自治会だけでなく老人会の方の参加もある。ノロ予防に関する知識や施設側のイベント情報の提供もされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例があった場合は市の担当者に相談をして協力していただいています。	地域包括とは運営推進会議など連絡連携を取る基盤が築かれているが、市担当者との関係はまだ浅い。	市の担当課の職員に運営推進会議に参加してもらうなど、関係を深めていくことを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の事務所から玄関の出入りや、ユニット館を移動する入居者様の見守りがしやすく、日中は玄関の施錠はしていません。帰宅願望の対応には勉強会で学習し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	玄関は自動ドアで日中は自由に出入りできる。建物のガラス窓の開閉部から敷地内が見渡せ、他のユニットの利用者も見守りが行き届く環境になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会等で学んでいます。常に意識して介護しています。特に言葉使いでは、命令口調や子ども扱い、言葉による抑制をしないように気をつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学んでいます。職員によってはまだの方もいるので今後の勉強会で学んでいくようにします。現在の所、制度の利用を必要としている入居者様は居りません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する重要事項説明書書は、変更の度、説明をし納得していただき、書面にて締結しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様に月1回請求書を取りに来てもらい、面会して話を聞く機会にしています。御家族様もそれぞれ話のしやすい職員に話しかけてもらい、入居者様の意見で外食に出かけたり、嗜好を取り入れています。	遠方の方を除き、家族への請求書は施設での手渡しとなっているため、その機会を通じての直接対話が大きな役割を果たしている。また運営推進会議への参加もあり、意見を反映させる体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議で話し合い、出された意見は記録し、欠席者にはリーダーから伝えられます。上司も参加し、情報の共有化を図っています。	月1回第3金曜日に職員会議を開催し、入居者の状況を共有、また職員から出た意見提案などは活かすようにしている。欠席者には会議録などを回して情報の共有をはかっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は職員が常に見やすい所においています。資格を持つことで給与に反映されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	色々な勉強会やセミナーがあることをいつでも職員がわかるように掲示しています。月に1回職員が講師になり勉強会をし自己研さんに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員会議で他のグループホームの館長。職員を招いたり、こちらから出向いたりして情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず訪問し、ご本人、ご家族様の意向を聞き出せるように努めています。また入所後も不安が生じないように声掛けを頻繁にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が困っていることを言ってもらえるような雰囲気づくりや、笑顔、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活スタイルを聞き出し、できる限りご本人が望む生活ができるように心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にするものとして食事の下準備等、出来ることは一緒にやっていき、家庭的な雰囲気づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回入居者様の生活の状況を報告しています。来設時にはご本人の日常生活の様子やご本人の思いを伝え、外出に誘ってもらい気分転換したりしてご家族とともに支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や隣近所で親しくしていた人が度々訪ねてきてくれたり、はがきを出したりしています。家族が墓参りや、馴染みの美容院へ連れ出してくれ、関係の継続の支援をしてくれています。	馴染みの方などからの手紙があった場合は返事を出すよう勧めサポートしている。家族の協力も得て、馴染みの美容院、お墓参りなど関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しめるようなレクリエーションや、散歩、行事を通して3ユニットすべての人がかわりあえるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば相談、話し合いなどしていません。系列の施設に入所された方などは、近くまで行けば、会いに行ったり、声をかけたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で意思を伝えることができる入居者様が多く、日常会話の中から意向を把握しています。意向の表せない入居者様への気づきは申し送りノートに記載したり、検討し職員全員が共有するようにしています。	希望や意向をはっきり示す方の場合は極力それに応えるようにしている。意志を示すのが難しい方は、家族からの情報や日頃の観察結果を参考に意向を推測して応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や環境を、職員が情報共有し介護に生かしています。介護記録等を参考にしたり、ご本人に伺ったりもしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	意思のしっかりした入居者様には其の方が過ごしやすいように御本人のペースで生活していただいています。そうでない方は、日々の様子で気づいたことや、変化のあったこと、健康状態を記録に残し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向と職員間で検討してプランを作成し、出来たプランについてご本人、ご家族様に説明しています。3ヶ月毎に本人と職員でモニタリングして内容を御家族様に報告、確認しています。	家族がより正確に把握できるように、入居者の現在の様子や状態について伝え、その上でこうして行きたいとケアプランについて説明、家族・職員がひとつになって作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で気づきがあれば職員間で話し合い、内容を記録に残し情報を共有できるようにしています。またそれを実践へ活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズをモニタリングやケアプランを通して考え、何を希望しているかをお尋ねし、できる範囲支援していくように努めています。退院後にはその時生じるニーズに対応できるようにサービスを変えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに参加しています。地域のボランティアの方の協力で畑を活用して、農作物を作り、楽しみながら生活できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に月1回協力医の往診があることも伝え、ご本人、ご家族様に選択してもらいます。入居以前のかかりつけ医は家人の付添いが基本で、受診後情報を伺い、不可能な場合は職員が同行し結果をご家族様に伝えます。	月1回協力医の往診があるが、全体で3分の1強の入居者が家族の協力もえて、以前からのかかりつけ医に受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に定期的に来てもらい体の様子を診てもらっています。また電話でも入居者様の体調の事等で相談に乗っていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居様が入院の場合、こちらの情報を病院に伝えたり、入院中も入居者様の様子を病院から知らせてもらったりしています。また病院へ様子を伺いに面会に行ったりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には前もって話し合いの場を作り、話をしています。併設の施設と連携を図っています。	看護師がいないので、入居時に家族にはできることを話し、重度化した場合は隣接する同一法人の老人保健施設でのケアへの移行の態勢などがあることを説明し、看取りは基本行っていない。	看取りの希望があった場合どのような態勢で臨むか、検討していくことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修会などに参加して救急時の対応などを勉強しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、併設施設とも連携し避難訓練を年2回実施し、水、食料の備蓄もあります。平屋の為避難路は確保しやすく、運営推進会議でも災害対策について取り上げ話し合っています。	避難のために敷地内の段差もスロープにして解消した。隣接する老人保健施設と連携した避難訓練を年2回実施、地域の防災訓練にも参加し、各ユニットまで地域の方が安否確認にくる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自立度の高い入所者様には、個別な話は居室で個人的に行い、入居者様への言葉掛けに差はつけないなど、自尊心に配慮して声かけをしています。居室には鍵が付いていてプライバシーが守られています。	意志のはっきりしている方には希望の呼び方で接するようにし、丁寧な言葉づかいを心がけている。施錠されている居室の夜間の巡回時には、解錠することを事前に入居者・家族の了解を得て入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	モニタリング等でご本人の気持ちを伺い、どのように生活したいかをしっかり聞き出し、できるだけ希望に沿うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の良くない日はその方の体調に合わせ過ぎていただいたり、季節の行事が近づく都希望者様には行事に向けての塗り絵や貼り絵をやっていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己表現が自らできる方にはその方の意思に任せています。そうでない場合は職員が身だしなみ、おしゃれを考えて支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者から届けられた食材を、ユニット毎に入居者様の希望に合わせた調理法で出しています。ミキサー食も普通食と同じ食器に入れて、見た目が一緒になるように配慮しています。食器拭きを当番制にして、能力により起る軋轢を少なくしています。	業者提供の食材だけでなく、畑でとれた大根やエンドウ、自家製手製の切り干し大根なども使用している。夏祭り、イベント時ならではのメニューもある。準備、片付けのできる入居者には役割を固定しないために輪番制で食器拭きを担当してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリーは計算されています。体重の変化にも注意しながら栄養の確保に努めています。脱水予防の為に午前、午後にお茶をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、介助し、清潔を保っています。毎食後が難しい人は、入床前は必ず職員と一緒に口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はポータブルトイレを利用する入居者様もありますが、日中は声掛けや誘導により全員がトイレで排泄ができるように支援しています。紙パンツからリハビリパンツに変更した入居者様も居り、失敗した場合はさりげなくトイレで交換しています。	トイレで排泄できるよう、日中は個々の利用者に合わせてさりげなく声掛けや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ水分を多くとってもらったり、食事も、便通の良いものを提供しています。規則正しい生活をして、日中運動をすることで自然な排便ができるように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1度沸かし、ご本人の希望に合わせて、入りたいときに入ってもらっています。十分くつろげるように冬場はみかんの皮を使い入浴剤にし香りも楽しんでます。	火、木、土の週3日午後2時から4時前までの時間帯で入浴を実施している。それ以外でも希望があれば入浴できる。入浴があまり好きでない入居者には清拭で対応している。また職員手作りのみかんの入浴剤で少しでも入浴を楽しんでもらおうと工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調によって、大変な時は横になっていただいたりしています。適度な運動や散歩、レクリエーションをして夜間ぐっすり眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療と連携を取り、常に体の状態に気をつけ、職員は入居者様がどんな薬を内服しているか把握しています。必要に応じて服薬援助して、誤薬の無いように見守り支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的にできるお手伝い(食器拭きや洗濯物たたみ等)をして頂いています。役割があることで張り合いが出て充実した日々が過ごせています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良ければ広い敷地内を散歩したり、併設施設の売店まで、なだらかな高低差を運動を兼ねて歩いてお菓子を買に行きます。職員と車で買い物に出かけたり、季節の花や紅葉を見に行くこともあります。ご家族様の協力のもと外出して気分転換している入居者様もいます。	天候が良い日は体操の後、敷地や近所を散歩している。買い物は隣接の保健施設の売店やショッピングセンターにも月一回職員が付き添い車で出かけている。季節には太田川の河原での花見や小国神社への紅葉狩りや海岸にケアセンターのマイクロバスなどを使って出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを預かっていますので、買い物と一緒に行って、自分で支払いができる方はご自分で出して頂きます。手元に自分用のおこずかいを所持している入居者様も居ります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があればその都度ご家族様に電話をしています。手紙が届いた時には一緒に読み返事を書く支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、3方向が窓で明るい作りになっています。台所からは調理中の良いにおいが漂い、入居者様は出来る範囲で季節行事の準備などに参加したり、見学したり、思い思いの場所で、昼間はほとんどリビングでしています。食事の時間はテレビを消して会話を楽しんでいます。	キッチンと一体となったリビングは大きな窓が3面にあり、とても明るい。入居者の作品や季節の飾り物なども、派手過ぎない程度に飾られている。外壁の色も壁紙も各ユニットごとに異なり、特に壁紙は明るくやさしい色使いのものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の好きな指定席があり、そこへ座り、テレビを見たり会話を楽しんだりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台や馴染みの品々を持ち入れたり、テレビや写真、冷蔵庫を置いたりして、ご自分が使い勝手の良い、心地の良い部屋にしています。	それぞれの居室は、自分の作品やご家族の写真などさまざまで、仏壇のある部屋もあり、入居者各々の趣味や暮らしぶりが感じられる。掃除も行き届いてとても清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使って立ち上がりの練習をしたり、廊下の歩行時に使用しています。ホールからは全居室の入り口が見渡せるようになっていて、常に安全の確認をしています。		